

高校生へ 私が選んだ 1冊の本

化学 意表を突かれる身近な疑問

日本化学会：編
講談社ブルーバックス

今年7月から8月にかけて、宇宙飛行士の野口聡一さんを乗せたスペースシャトル「ディスカバリー」が宇宙に飛んだ。テレビに映し出される宇宙からの映像を見て、いつか自分も宇宙へ行きたい、そう思った人も少なくはないはずだ。真っ暗な宇宙から地球を見た時、人はどんな気持ちになり、何を考えるのだろうか。私は、宇宙に行ける日が来たら自分の目で、地球を見てみたいと強く思った。そして、私と同じように多くの人が、夢や希望を抱いたに違いない。科学は、私たちに夢や希望を与えてくれるのだ。

私たちの生活には、さまざまな形で化学が存在している。日常生活の中で出会う「なぜ？」には、必ず化学が絡んでいる。その一方、多くの人が化学を難しく考えているのではないだろうか。そうして、何気なく行っている「生活の知恵」に含まれている化学的根拠に、疑問をもたないようにしているのではないだろうか。

例えば、「昆布はなんでダシが海水に溶け出さないの？」という疑問。多くの人が「あたりまえだ」と思い、説明を求められて初めて「なぜ？」と考える。これこそまさに、「化学・意表を突かれる身近な疑問」なのだ。

昆布のダシの成分であるグルタミン酸ナトリウム。この物質はアミノ酸のひとつで、〈うま味〉成分といい、甘味・塩味・酸味・苦味に続く〈第

五の味〉として知られている。本書では、昆布にとってこのグルタミン酸が生きるために必要な物質であるため、海水に溶け出さないと説明があった。生きていくために生物が行う「選択透過性」がはたらいっているため、ダシが海水に溶け出さないのだ。本書の解説を読んで、海で漂っている昆布が「生きている」ということを実感した。「生きている昆布」と「ダシに使う昆布」の違い。「なぜ」という疑問から、「あたりまえ」のことに気づかされた。このように、本書では身近な生活の疑問から化学の世界を広げてくれる話が短い話でいくつも綴られている。

身近な疑問を解く事により、視野が広がり、化学は難しいという先入観を取り除くことができると思う。また、本書は親子の会話形式になっているため、難しい用語もすんなり頭に入ってくるのが魅力的だ。子どもが投げかける「なぜ？」に、誠実に対応する大人の姿。そんな大人になりたいと、私は感じた。

そして、流行にも化学が絡んでくる事を忘れてはいけない。例えば、「アルカリイオン水って、ほんとうにからだにいいの？」という疑問。最近、アルカリイオン水は体に良いという宣伝文句で電解水生成器が一般家庭に広がりつつある。しかし本書によると、根拠があるのかどうかはわからないとあった。仮に、人間が〈アルカリイオン水〉を飲んだとする。入ってくる胃の中は強酸であるため、アルカリイオン水をコップ一杯くらい飲んでも、胃酸を中和する働きはないのだ。このように健康ブームにのって、根拠もない商品が私たちの生活の中に広がりつつある。

化学は私たちの生活に大きな夢や希望を与え、便利にしてくれる知恵である。だが、反対に化学的な言葉に惑わされることも少なくない。現在、消費者である私たちは判断する力が求められている時代を生きているのだ。

(九州国際大学附属高等学校 女子部3年 吉井 美貴)

通巻第59号
2006年2月1日 印刷
2006年2月5日 発行

©編集・発行

実教出版株式会社

代表者 島根正幸

定価 210円(本体200円)

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5

TEL. 03-3238-7777

<http://www.jikkyo.co.jp/>